平城宮の宝幢遺構

宮廷では国家的儀式に際して、宮殿全体や殿舎を装飾した。『延喜式』（延長5年・927）によると、儀式には大・中・小の区別があり、それに応じて宝幢や各種の纛幡旗を立て、殿舎には斑幕などを飾った（表5）。宝幢とは元日や即位（大儀）に、大極殿の南15丈4尺に立てる日像・月像など7基の幢のことである。同書巻49「兵庫寮」に、「凡元日及即位搆建寶幢等者。預録色目移送兵部。前十五日復請夫単廿人。（略）待官符到。寮與木工寮。共建幢柱管於大極殿前庭龍尾道上。前一日率内匠寮工一人。鼓吹戸卌人。搆建寶幢。従殿中階南去十五丈四尺建烏像幢。左日像幢。次朱雀旗。次青龍旗。旗當殿東頭檐。玄武旗當西頭檐。右月像幢。次白虎旗。次玄武旗。相去各二丈許。與蒼龍。白虎両檐南端檐。平頭。訖並返納。」とある。その起源は藤原宮にある。『続日本紀』大宝元年（701）1月乙亥朔条に「天皇御大極殿受朝。其儀、於正門樹烏形幢、左日像青龍朱雀幡、右月像玄武白虎幡。蕃夷使者陳列左右。文物之儀。於是備矣。」とあり、『延喜式』と大宝元年条では幡の青龍と朱雀、白虎と玄武が左右入れ換わる。

宝幢の周囲には纛と幡、小幡などを多数立てた。『延喜式』では大極殿南階・龍尾道下などに纛幡4種8本、隊幡2種16本、小幡84～196本とあり、その鋪設位置は大極殿南階、龍尾道下の他に会昌門外、応天門外、朱雀門外などがある（表6）。『宮衛令集解』元日条に引く『古記』には、元日の鋪設として「五纛」がみえる。『古記』の成立は天平10年（738）頃であり、奈良時代前半に遡る可能性がある（『平城報告XIV』1993）。

平城宮第二次大極殿前庭には宝幢遺構がある。発見は1983年夏のこと。宝幢周囲には幢幡遺構が多数あり、これはさらに大極殿南門前、朝庭の大嘗宮跡や朝堂院南門（会昌門）南などにもおよぶ（前掲書他）。

大極殿前庭の宝幢跡には前後2時期分（SX11260他とSX11255他）があり、これらを囲む幢幡遺構を含めて5本柱式、3本柱式、1本柱式の3型式があって幢幡の違いにより樹立方法・位置に違いがある。5本柱式は幢竿の四方に脇柱を設けるもの、3本柱式は幢竿左右に脇柱があるもの、1本柱式は幢竿を単独で立てるものである。

このうち、大極殿前庭部の宝幢は3本柱式である。特に7基分が想定できる後期のSX11255他は、掘形などの特徴が、長岡宮宝幢跡（1997年発見）とも共通する。

即位儀礼研究の必須史料である『文安御即位調度之図』（文安元年・1444）は宝幢だけでなく、纛幡、隊幡の一部も3本柱式に描く。しかし、大極殿南階の周辺や大嘗宮、会昌門南など平城宮例では纛幡、隊幡、小幡推定遺構はいずれも1本柱式であり、調度図の姿は後の変質と思う。

平城宮の宝幢遺構で目下の課題は5本柱式である。検出遺構は大極殿の東北と西北隅（SX9151・9168）であるが、本来は大極殿の四隅にあって大極殿を荘厳したのであろう。これについては仏教儀式と関わるかという（吉川真司「長岡宮時代の朝廷儀礼—宝幢遺構からの考察—」『向日市埋蔵文化財センター年報　都城10』201-217頁 1999）。この是非を問う的確な絵画史料はないが、幢幡は仏教の象徴ともいい（『続日本紀』霊亀2年5月15日詔）、『日本霊異記』にも法華寺の幢幡説話がある。寺院史料の内、『興福寺史料』「宝字記」には幡竿が回廊四隅にあるとの記録がみえる。仮にそうなら、大極殿での仏教儀式との関わりを考えるべきであろうか。

平城宮第二次大極殿院の宝幢関連遺構群は重複が少なく、数なども多くはない。これは宝幢や纛、小幡遺構の出現が奈良時代の後半か末葉に下ることを示唆する。

宮廷儀式の復元にとって『貞観儀式』（貞観13年・871頃）、『延喜式』は欠かせない史料であるが、両書が描く儀式像はあくまでも平安期のそれであり、その内容を無批判に奈良時代の初期にまで遡らせることは、慎むべきことと思う。

（金子裕之）

表5　『延喜式』にみる大儀・中儀・小儀

Ⅰ	（大儀）	纛・鉦鼓・幡	元日・即位・受蕃国使表
Ⅱ	（中儀）	幡のみ	元日宴会・1/7宴・1/17宴・新嘗会・饗賜蕃客
Ⅲ	（小儀）	なし	告朔・上卯日・臨軒授位・任官　1/16宴他、出雲国造・冊命皇后・冊命皇太子・遣唐使賜節刀等

表6　『延喜式』にみる幢幡の位置（大儀・元日）

北殿門	小幡	18×2	兵衛府（巻47）
大極殿南階	龍像纛幡	1×2=2	近衛府（巻45）
	兕像纛幡	2×1=2	中務省（巻12）
	鷹像隊幡	8×2=16	（近衛4×2=8、衛門2×2=4）
	小幡	42×2=84	近衛府（巻45）
龍尾道下*	虎像纛幡	1×2=2	兵衛府（巻47）
	熊像幡	4×2=8	兵衛府（巻47）
	小幡	96×2=192	兵衛府（巻47）
龍尾道以南諸門	小幡	4×4×2=32？	兵衛府（巻47）
会昌門外	鷲像纛幡	1×2=2	衛門府（巻46）
	鷹像隊幡	2×2=4	衛門府（巻46）
	小幡	49×2=98	衛門府（巻46）
応天門外**	隊幡	2×2=4	衛門府（巻46）
	小幡	45×2=90	衛門府（巻46）
朱雀門外	隊幡	2×2=4	衛門府（巻46）
	小幡	48×2=96	衛門府（巻46）
蕃客朝拝：	龍尾道下の隊幡等は倍増し、「応天門内」が加わる。		近衛府（巻45） 衛門府（巻46）
*龍尾道下	虎像纛幡	1×4=4	近衛府（巻45）
	熊像幡	4×4=16	近衛府（巻45）
	小幡	96×4=384	近衛府（巻45）
**応天門内	鷲像纛幡	1×2=2	衛門府（巻46）
	鷹像隊幡	2×2=4	衛門府（巻46）
	小幡	49×2=98	衛門府（巻46）